

医師

長尾 和宏さん (60)

長尾クリニック (兵庫県尼崎市)
医師歴34年



①医師になった理由は？

医大生の頃から無医地区の支援をさせてもらうなど、医療が受けられずに困っている人を助けたいという思いからです。医師の子息でもないのに、苦学生をしながら医師になりました。

もともとは教員志望で、医大生の頃は塾講師をしていましたし、現在でも介護事業者や医師を対象にした「私塾」(勉強会)を多く主宰しています。

転機は1995年の阪神淡路大震災で、84年に大阪大学病院の医局に勤務医として勤めて以来、11年目にして長尾クリニックを開設。外来と在宅医療などを軸とした取り組みをはじめました。

②仕事のやりがいは？

私は医師ですから、外来であっても、在宅であっても、望むべき場所で本人の望む医療を提供することがやり甲斐です。

③一番気をつけていることは？

原則としてクリニックのある兵庫県尼崎市の患者さんを診ていますが、周辺地域でも、経済的・社会的など様々な理由から、医療が受けられない患者であれば、できる限り診るようにしています。「全人的医療」を提供したいという思いからです。

クリニック開設以降も、外来も、在宅も取り組むのは、この全人的医療のためです。担当患者数も、毎日おおよそ在宅・外来を半々ずつ診ています。

④利用者へ一言

釈尊が入滅後、正しい仏法が伝わらなくなる末法思想のように、私は「末法医療」の時代になってきたことを感じています。

本人の意思が尊重されるのは言うまでもないですが、超高齢社会の日本では、本人の望まない薬漬けの医療や、過剰な医療ではなく、その人らしい医療がうけられるようにあるべきです。

在宅であっても望む医療が受けられるべきで、在宅医療に取り組む医師を増やしていくことも、私の仕事であると感じています。もちろん医師(看護師)だけで完結できるものではありませんから、ケアマネジャーや介護事業者との連携を図りながら、患者さんのために取り組んでいきたいと考えています。

〈ある日のスケジュール (月～水曜日)〉

9時～11時 在宅診療

11～12時 外来診療

13～18時 在宅診療

18～19時 外来診療

※深夜含め、年中無休で緊急時対応

※ほかに国や県、尼崎市などの各種委員▽主宰する私塾での講演▽マスコミ対応▽新聞雑誌連載執筆——など。

在宅診療医

患者宅等に定期的に訪問して診察する医師。年齢や病気の制限はなく、通院が困難な患者が対象で、計画的に健康管理を行います。緊急時には365日×24時間体制で対応し、必要に応じて臨時往診や入院先の手配などを行います。高齢者などには、病気の治療の周辺の「転倒や寝たきりの予防」「肺炎や褥瘡などの予防」「栄養状態の管理」なども重要な役割です。

制作
シルバー産業新聞社

介護の日しんぶん

2018

2018年(平成30年)
11月11日
(日曜日)

定価300円(税込)

発行所 株式会社 シルバー産業新聞社
本社 大阪市中央区上汐 2-6-13 喜多ビル
〒542-0064 電話 (06)6766-7811 FAX (06)6766-7812
東京オフィス 東京都千代田区神田佐久間町 3-27-3 ガーデンパークビル
〒101-0025 電話 (03)5888-5791 FAX (03)5888-5792
© シルバー産業新聞社2018 禁無断転載
編集・発行人 安田勝紀

(1)

<http://www.care-news.jp>



インタビュー 上野千鶴子さん おひとりさまでも自宅で最期まで	2
頼れる専門家へ相談を	3
徹底紹介! 在宅介護を支える スペシャリスト	4 5
特別座談会 「介護でその人の人生を より豊かにできる」	6 7
最期まで支える在宅医療	8
介護食はおいしく、ちょっと手抜きで	9
福祉用具で叶える暮らし	10
高知発祥の介護予防運動	11
インタビュー 町亞聖さん 母と向き合った10年の介護	12

介護

介護のたいへんさは当人では分らない。それでも、家族でケアを分け合っている。ケアマネジャーやヘルパーさん、看護師さんらの力を借りて、一日一日をがんばっている。そうして、家庭が日本国中にある。誰もが通る人生の最晩年を、できるかぎり健やかに笑顔で過ごしたいという人々を、介護・福祉の専門職が多方面に支えている▼厚生労働

省は、65歳以上がピークを迎えるまでに、介護に過せる健康延ばす目標を、足腰を鍛え、がりを着る用者について、重度化防止にリレーション的に行って老後や介護を